

内部統制システム対応は現在実施中 9月以降システム開発案件は激減

株式会社ビーブレイクシステムズ

ビーブレイクシステムズが様々な現場で感じたシステム業界における現在の景気動向を、現場目線で定期的に発信します。

【業務管理システムの分野について】

今年の4月の事業年度からスタートした内部統制のシステム対応は未了の企業が多く、現在システム化に向けて多くのプロジェクトがスタートしています。現在システム選定を行っている企業も多く、今後さらに内部統制関連のシステム開発は堅調に推移していくと予想されます。また2009年4月の事業年度からスタートする工事進行基準への対応も一部業界では求められており、業務管理システムの分野では引き続き積極的なシステム開発がおこなわれると思われま

す。しかし、景気の後退に伴い状況の変化も生じてきており、今年の9月の前後で企業のシステム投資への対応が異なります。9月以前に投資を判断した企業は、引き続きシステム開発を続行していますが、9月以降にシステム投資の判断を行う予定であった企業は、その判断を先延ばしにする傾向にあります。これは9月に景気後退局面が顕著になったことが原因であると考えられます。とはいえ、システム開発の必要性は認識している企業が多いため、システム投資自体を凍結するわけではなく、いったん投資判断を保留にし、景気動向を見定めたいということのようです。

【他分野のシステム開発について】

昨年の同時期に比べて全体的にシステム開発案件数が3割程度減少しています。案件が減少しているのは、プロジェクトの中止や縮小が増えたことが原因です。今年の上期までシステム投資を積極的に行っていた多くの企業でも、景気の悪化によるコスト縮小が求められ、下期以降のシステム投資について消極的になってきています。特に金融機関ではその傾向が顕著にみられ、トップダウンでプロジェクトの中止や縮小を決定している状況を様々な現場で散見します。

プロジェクトの要員の需要と供給のバランスについては、需要が100とすると昨年同時期の供給が70とプロジェクト現場で人が足りないという状況が続いていたのに対し、現在は供給が100という状況で、プロジェクトの要員の需給のバランスが均衡している状態にあります。

職種別要員の需要状況を見ると、プロジェクトマネージャーについては、新たな需要はあまりない状況です。プロジェクトリーダーやシステムエンジニア(SE)については、昨年と同じぐらいの需要があります。しかし、プログラマの需要は激減しており、特に初級レベルの需要は皆無に近い状況です。これは景気後退に伴うコストの削減要求から中国などへのオフショア開発が活発に行われていることが要因だと考えられます。また要員の単価については、職種に限らず全体的に単価の下落も見受けられます。

株式会社ビーブレイクシステムズ 会社概要

住所：〒141-0031 東京都品川区西五反田2-19-3 五反田第一生命ビル

設立：2002年7月

資本金：6,000万円

代表取締役：白岩次郎

事業内容：戦略的業務管理システム「MA-EYES」等のパッケージ販売や、システムの受託開発。

URL：<http://www.bbreak.co.jp/>

【本レポートに関するお問い合わせ先】

株式会社ビーブレイクシステムズ 担当：木塚、岡部

TEL：03-5487-7855 / FAX：03-5487-7855 / E-MAIL：info@bbreak.co.jp